

『銀の笛』自選二十句

栗原公子

佳きことのひそみてをらむ初暦
元旦の空たふたくて退屈で
冬麗やふれて分け合ふ静電気
淋しさの正体冬の薔薇に棘
銀の笛欲し全山を芽吹かせむ
陽炎の入り口ペダル強く踏む
万緑に染まり山彦かへり来る
庖丁に水垂直に当てて夏
涼しかり星座は花の名を持たず

あぢさゐが好き音たてぬ雨が好き
全力のつもり私とかたつむり
自由とは涼しかりけり淋しかり
台風来すこしわくわくしてゐたり
月光も編みこみ烏瓜の花
小鳥くる明るき詩を詠へよと
誰もみな遺されしもの水澄めり
砂時計の時は銀色クリスマス
冬銀河イヤホンに聴くシベリウス
待つといふ悦びもあり冬木の芽
日記買ふまだ見ぬ吾に会ひたくて